

インターネット時代における高年齢層の
生活スタイルに関する調査

50 代が展望する 10 年後
～ 人間性あふれる I T 生活 ～

平成 13 年度 内閣府委託調査

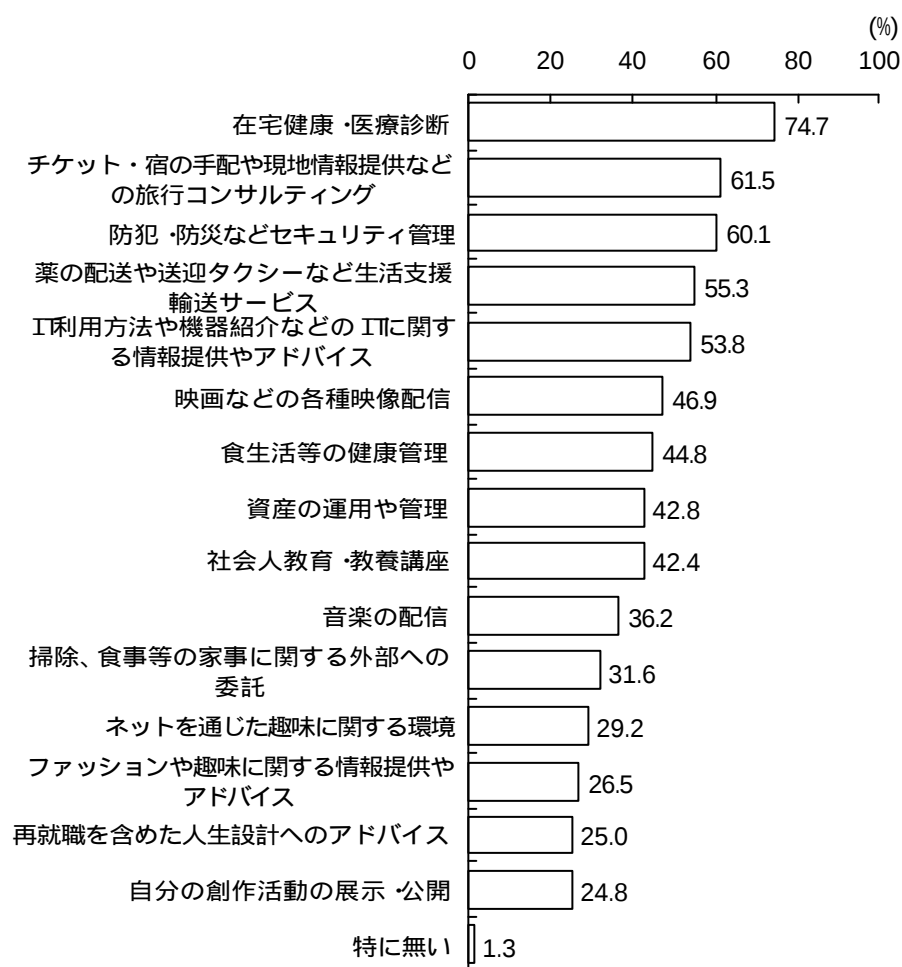
(委託先：社団法人日本リサーチ総合研究所)

．消費生活とＩＴ

- １．在宅健康・医療診断をはじめ、旅行コンサルティングやＩＴアドバイスなど、マンツーマンのＩＴサービスニーズが強い

- ・ 10 年後に最も利用したい生活ＩＴサービスは「在宅健康・医療診断」。他の項目を 10 ポイント以上上回っている（図表 - １）。
- ・ 旅行コンサルティング、生活支援輸送サービス、ＩＴアドバイスなどの利用意向が高い一方、ファッションや趣味、人生設計などへのアドバイスは望まれない。
- ・ ファッションや趣味など個人的なものへのＩＴサービスニーズは高くないが、健康や安全など家族もかかわる状況に適した支援サービスへのニーズは強い。

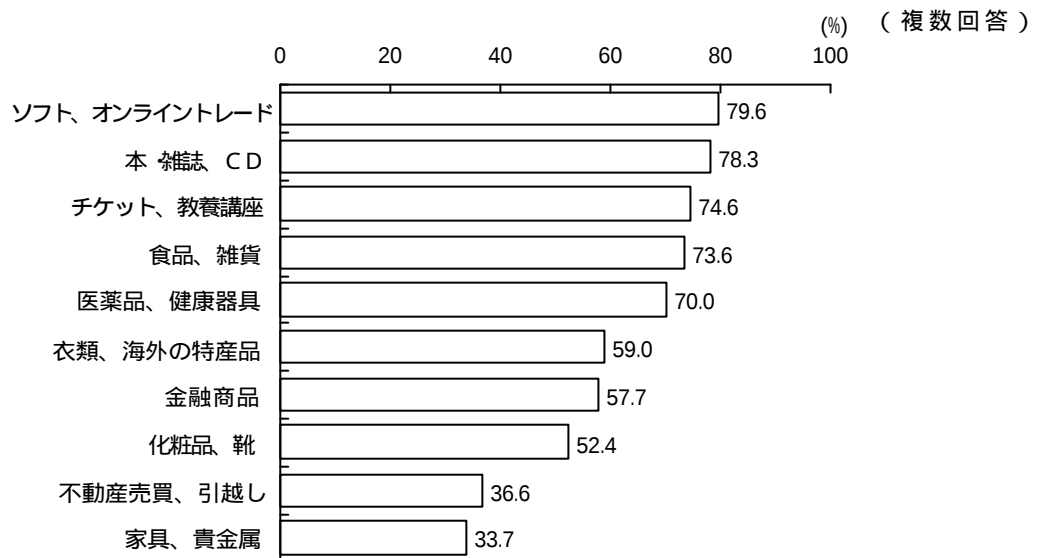
図表 - １ 10 年後の生活で利用したいと思うＩＴ活用サービス（複数回答）



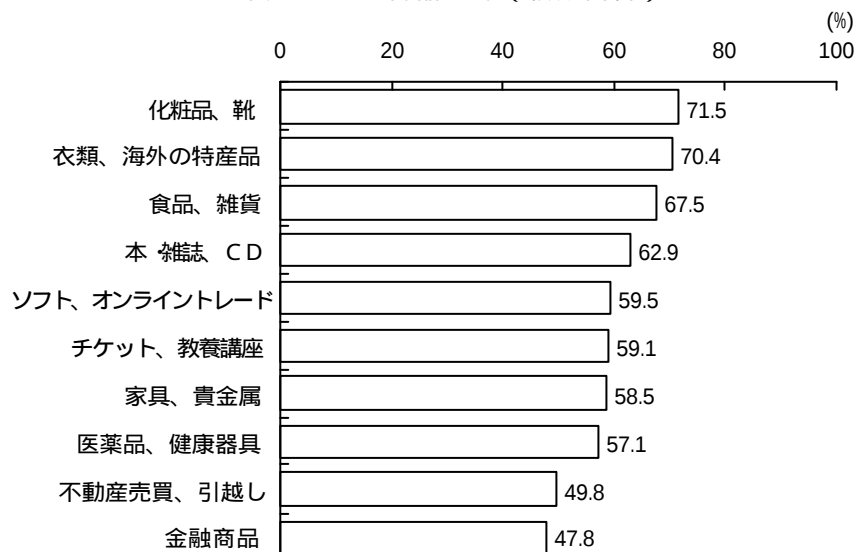
- 2 . 24 時間どこでも売買できることや、商品情報・商品検索機能が幅広い身近な商品ジャンルに求められている

- ・商品、サービスの売買に欠かせない機能のうち、「24 時間好きなときにどこからでも売買できる」ことは、食品・雑貨や医薬品、健康器具など身近な商品に求められる機能（図表 - 2 ）。
- ・「希望商品の検索や、新製品や流行商品がみられる」機能は化粧品・靴や衣類などを中心に求められている（図表 - 3 ）。

図表 - 2 「24 時間好きなときにどこからでも売買できる」機能が必要とされる商品分野



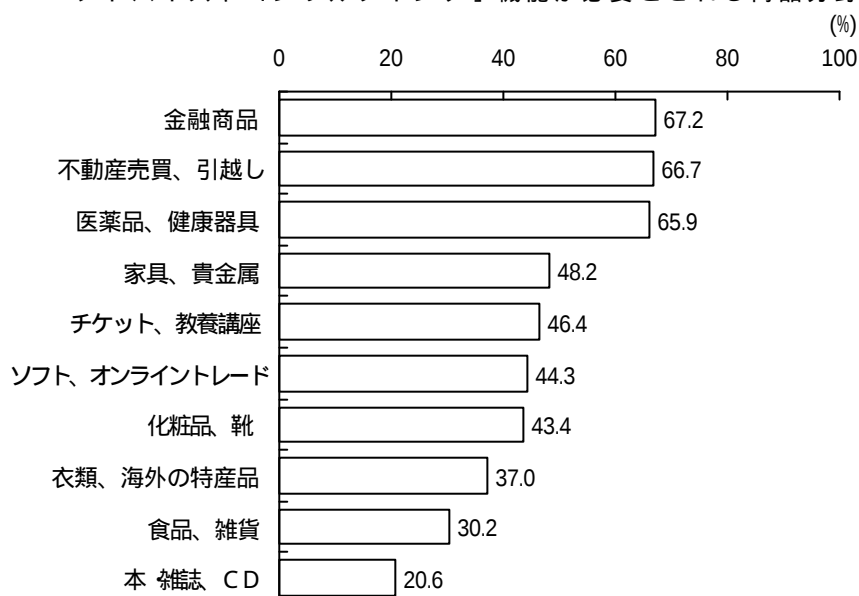
図表 - 3 「希望する商品を検索したり新製品や流行の商品がすぐに見られる」機能が
必要とされる商品分野（複数回答）



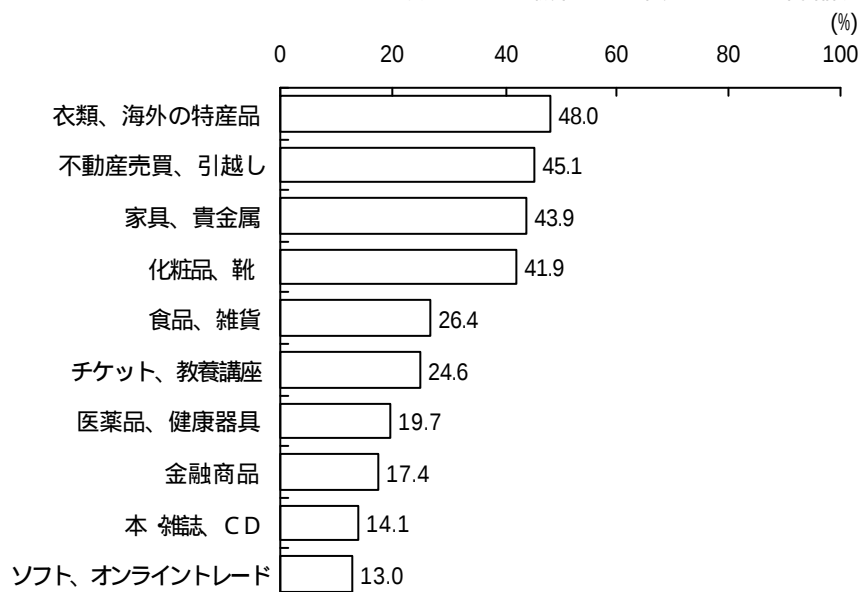
- 3 . 金融商品や、不動産売買や、医薬品購入にはＩＴの機能を活かした
「アドバイスやコンサルティング」が求められている

- ・ ＩＴを使った商品、サービスの売買時に欠かせない機能として「アドバイスやコンサルティング」が受けられることが望まれているのは金融商品、不動産売買、医薬品・健康機器分野など（図表 - 4 ）。
- ・ 「オーダーメイドへの対応」機能のＩＴサービスは衣類をはじめ、不動産売買・引越、家具・貴金属、化粧品・靴などの商品ジャンルにビジネスチャンスがあると思われる（図表 - 5 ）。

図表 - 4 「アドバイスやコンサルティング」機能が必要とされる商品分野（複数回答）



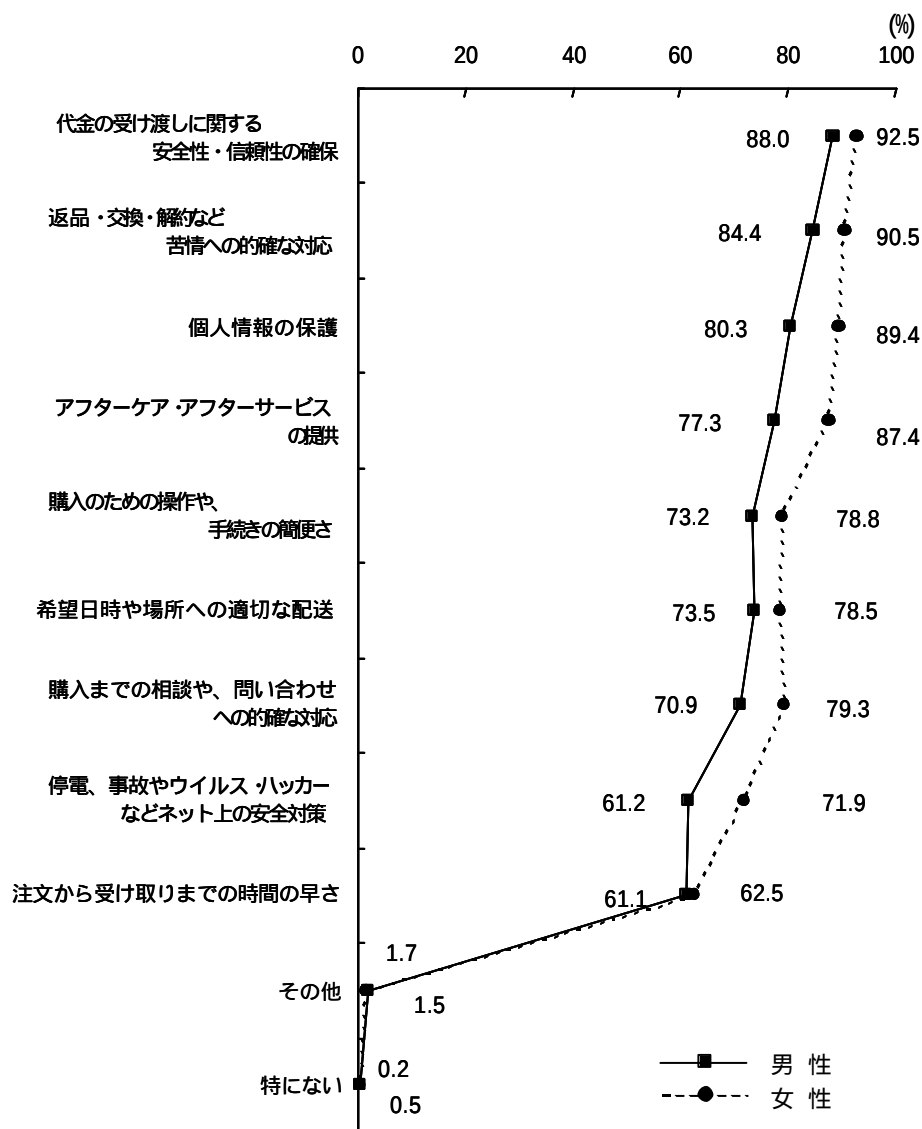
図表 - 5 「オーダーメイドに対応する」機能が必要とされる商品分野（複数回答）



- 4 . 安全性確保や返品対応・アフターケアなど、取り引きでの安心感が
IT 売買の必須条件

- ・ 商品、サービスの売買を行う上で必要とされるのは、「代金受け渡しの
安全性・信頼性」「返品・交換・解約対応」「個人情報保護」「アフタ
ーケア」など。
- ・ 売買への IT 利用の条件は、安心して IT を活用できるシステムである
ことと、IT を使わない取り引きにあるサービスが、IT 利用でも受け
られることである（図表 - 6 ）。

図表 - 6 IT を利用した商品・サービス売買に求められるシステム（複数回答）

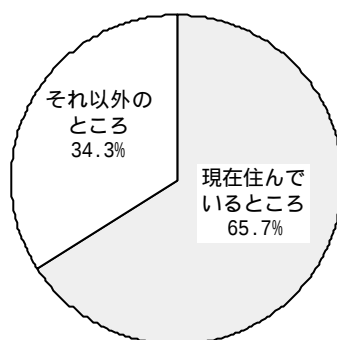


．居住生活とＩＴ

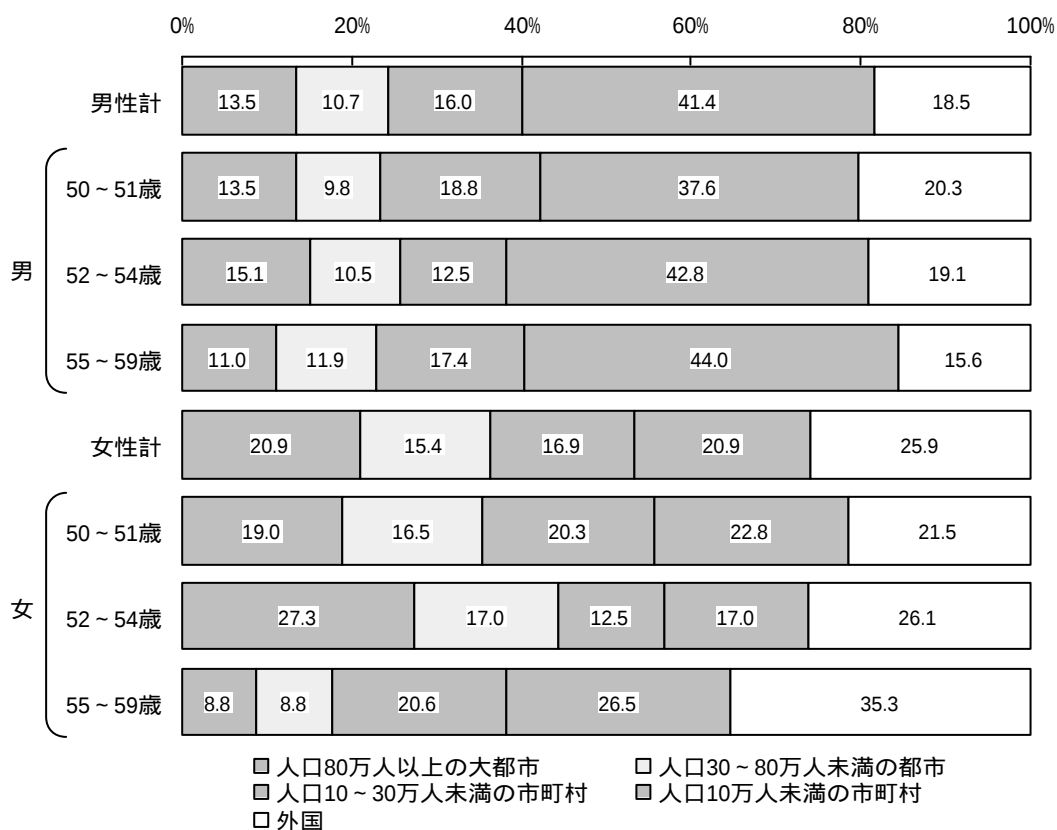
- １．団塊の世代を中心に都市型生活志向が強い 50 代

- ・ 10 年後も今のところに住み続けたい人は 66%、移住したい人が 34%（図表 - 1）。
- ・ 男性は田舎暮らしを望み、女性は都市型生活を志向。中でも団塊世代女性の生活利便性志向が強い（図表 - 2）。

図表 - 1 10 年後の居住地



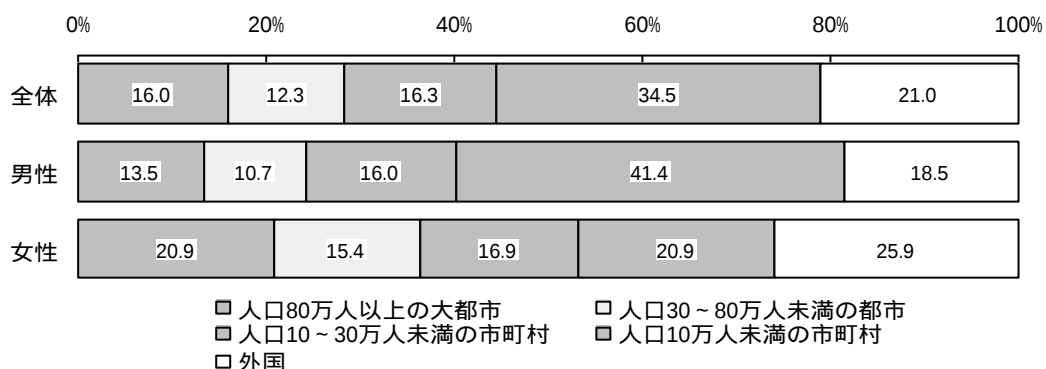
図表 - 2 それ以外の地域の内訳（性別・年齢区分別）



- 2 . 60 代を楽しく過ごすため海外生活も視野に

- ・ 10 年後に移住したい人のうち、団塊の世代を中心に 35% が人口 10 万人未満の地域を、21% が外国への移住を希望。海外生活希望者は全体の 7 % 強にあたる（図表 - 3 ）
- ・ 人口の多い地域への移動は生活利便性のため、人口の少ない地域へは自然のため、海外への移住は生活を楽しむため（図表 - 4 ）

図表 - 3 それ以外の地域の内訳（性別）



図表 - 4 別の場所で暮したい理由（複数回答）（性別・移住希望都市規模別）

	自然がある	生きがい を達成 できる	楽しそう	生活が 便利	病院など 設備が整 っている	家族や 友人が 周りにいる	故郷で ある	仕事がある	親類縁者 がいる	その他
男性計	69.8	44.2	36.5	29.4	23.9	20.1	17.5	16.8	9.9	8.1
人口80万人以上の 大都市	11.3	22.6	32.1	84.9	69.8	43.4	15.1	43.4	11.3	5.7
人口30～80万人未 満の都市	59.5	31.0	35.7	71.4	54.8	31.0	23.8	31.0	14.3	4.8
人口10～30万人未 満の市町村	79.4	46.0	33.3	33.3	28.6	27.0	30.2	25.4	19.0	4.8
人口10万人未満の 市町村	93.3	50.9	35.0	6.7	6.1	12.3	19.6	5.5	7.4	4.3
外国	57.5	50.7	46.6	12.3	8.2	8.2	-	6.8	4.1	23.3
女性計	58.2	39.8	43.8	43.3	39.3	31.3	13.4	11.9	8.0	10.0
人口80万人以上の 大都市	11.9	40.5	47.6	92.9	81.0	64.3	21.4	19.0	7.1	4.8
人口30～80万人未 満の都市	61.3	29.0	38.7	83.9	80.6	38.7	9.7	19.4	16.1	-
人口10～30万人未 満の市町村	82.4	44.1	41.2	41.2	38.2	38.2	17.6	23.5	11.8	5.9
人口10万人未満の 市町村	90.5	42.9	31.0	7.1	4.8	16.7	21.4	4.8	7.1	11.9
外国	51.9	40.4	55.8	9.6	9.6	7.7	-	-	1.9	21.2

- 3 . 安心・安全・便利が 60 代の生活に求められる I T 機能

- ・ 10 年後の居住環境をよりよくするために I T に求められる機能は安心（「介護・健康管理」「緊急医療体制」などの健康、生活面での安心感）、安全（ホームセキュリティ）、便利さ（電子決済）が求められ、中でも安全面への要求が高い（図表 - 5 ）。
- ・ I T アドバイザーや、電子家電、ホームセキュリティは女性に求められている機能（図表 - 6 ）。

図表 - 5 よりよい居住環境に必要な I T 機能（複数回答）（性別・上位回答）（％）

必要と思う I T 機能（上位 7 位）	全体	男性	女性
1 . 介護・健康管理	84.3	81.9	88.9
2 . 緊急医療体制（非常時の連絡体制）	81.3	78.2	87.1
3 . ホームセキュリティ（火災や家屋進入の通報）	66.7	61.9	75.4
4 . 電子決済（オンラインでお金のやり取りが安全にできる）	65.2	65.7	64.3
5 . 電子政府・電子自治体（印鑑証明、住民票の受取など）	58.3	58.7	57.4
6 . e コマース	57.7	54.2	64.1
7 . 電子新聞・電子出版	50.7	56.5	40.1

図表 - 6 よりよい居住環境に必要な I T 機能(複数回答)(男女差の大きい回答)(％)

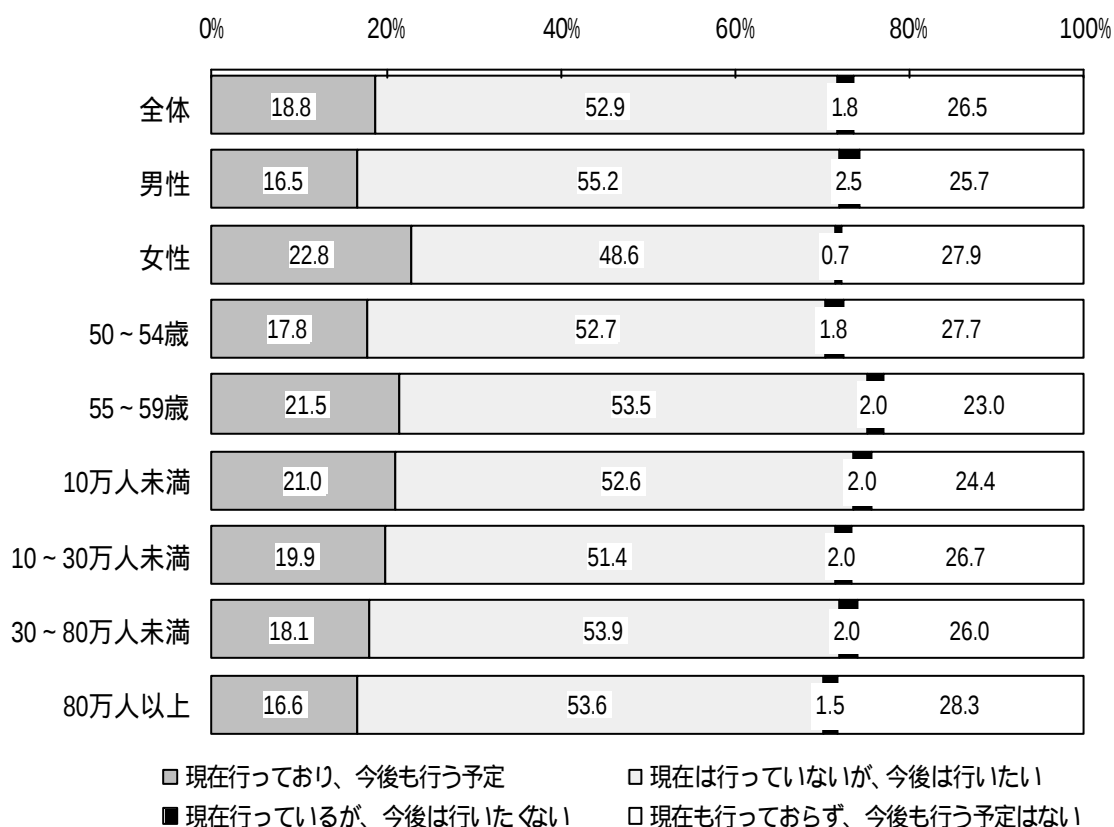
必要と思う I T 機能	差	男性	女性
1 . I T アドバイザー（I T に関する各種アドバイス）	19.7	27.8	<u>47.5</u>
2 . 電子新聞・電子出版	16.4	<u>56.5</u>	40.1
3 . 電子家電（外出先から空調や照明をコントロール）	13.6	33.1	<u>46.7</u>
4 . ホームセキュリティ（火災や家屋進入の通報）	13.5	61.9	<u>75.4</u>
5 . e コマース	9.9	54.2	<u>64.1</u>
6 . 緊急医療体制（非常時の連絡体制）	8.9	78.2	<u>87.1</u>
7 . 高度交通システム	7.8	43.1	<u>50.9</u>
8 . 介護・健康管理	7.0	81.9	<u>88.9</u>

．市民活動等とＩＴ

- １．50 代の 7 割にボランティア活動の意向がある。今後ボランティアに携わる人が急速に増えることが予想される。

- ・ ボランティア活動を行う予定の人は 72 %。53 % は新規に参加を考えている人達で、今後ボランティア人口は急増が予想される（図表 - 1 ）。
- ・ 現在ボランティアを行っている人は、女性や年齢が 50 代後半の人に多く居住地の人口が少ない地域の人ほど多い。
- ・ 今後未経験者がボランティア活動を行うための研修や、受け入れ態勢の整備・調整などが課題となってくると考えられる。

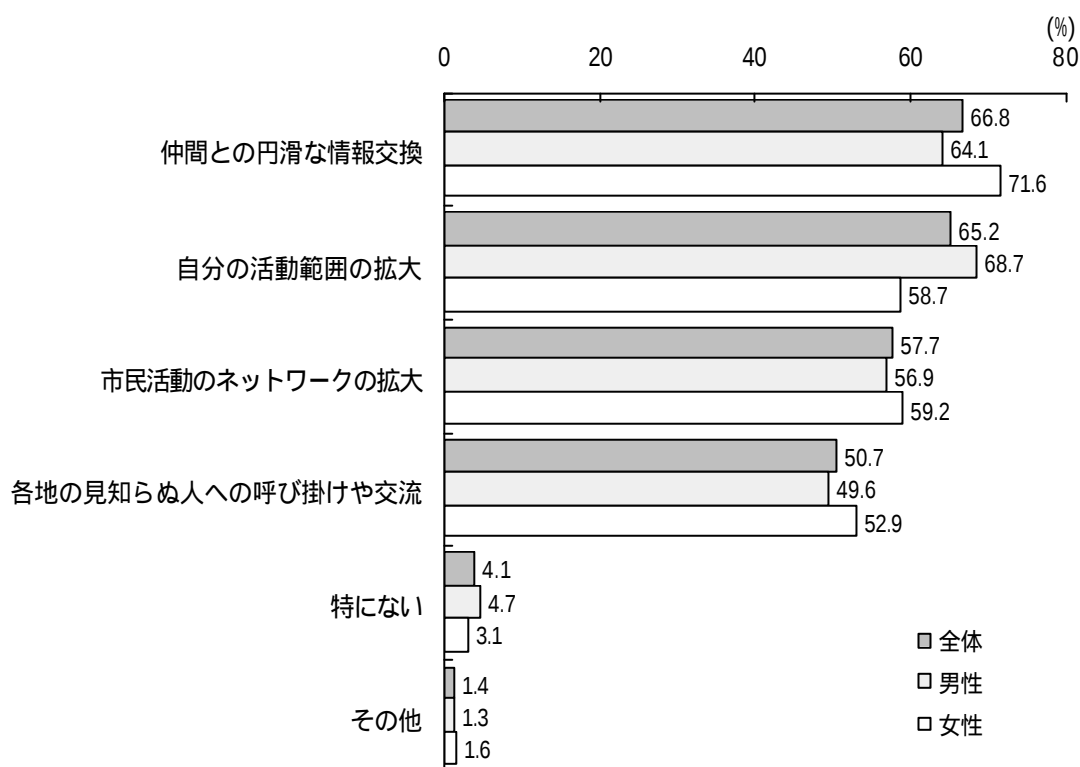
図表 - 1 ボランティア活動の有無と今後の意向
（性別・年齢区分別・居住地人口別）



- 2 . I T 機能の市民活動面での活用は、女性は仲間との情報交換、男性は自分の活動範囲の拡大を重視し、男女に差がある

- ・ I T の機能を利用した市民活動を盛んにする活用策として、男性が重視するのは「自分の活動範囲の拡大」、女性は「仲間との円滑な情報交換」が最も多い（図表 - 2 ）。
- ・ 「市民活動のネットワークの拡大」や「各地の見知らぬ人への呼びかけや交流」も半数以上が I T を活用して盛んにできると答えており、 I T による市民活動の活発化への期待は高い。

図表 - 2 I T 機能の市民活動への活用（複数回答）（性別）

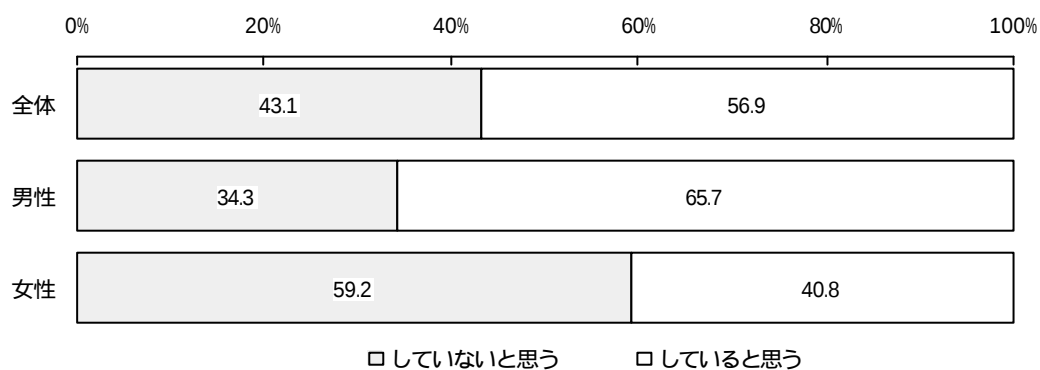


．仕事とＩＴ

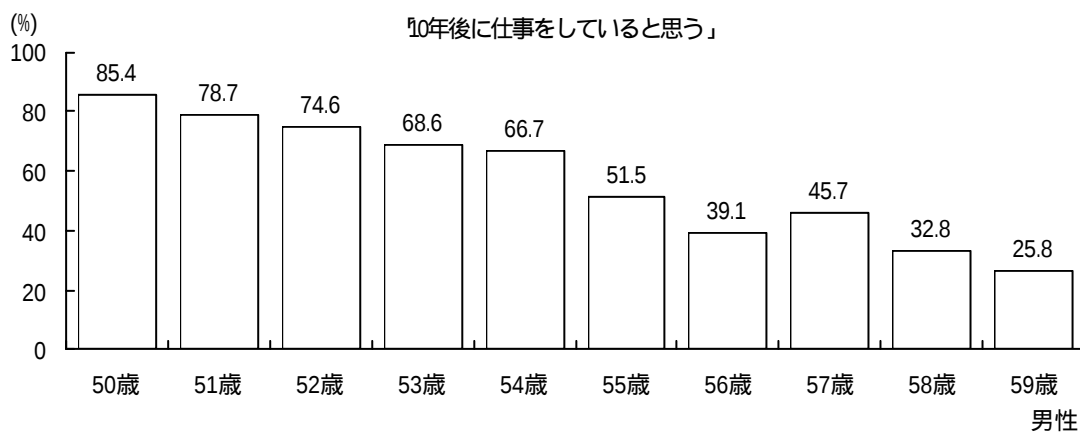
- 1 ．半数以上の男性は 65 歳までは働くと考えている

- ・ 10 年後に仕事をしていると思う人は男性の 66%、女性の 41%（図表 - 1）。
- ・ 男性で 10 年後に 60 歳の人、まだ仕事をしていると思う人は 8 割を超えるが、69 歳では 25% しかいない。仕事をしているかの判断は 65 歳になっているかが分かれ目になる（図表 - 2）。
- ・ この結果から 50 代の男性は、65 歳までは働いているとの見方を半数以上の人が持っているといえる。

図表 - 1 10 年後の仕事（性別）



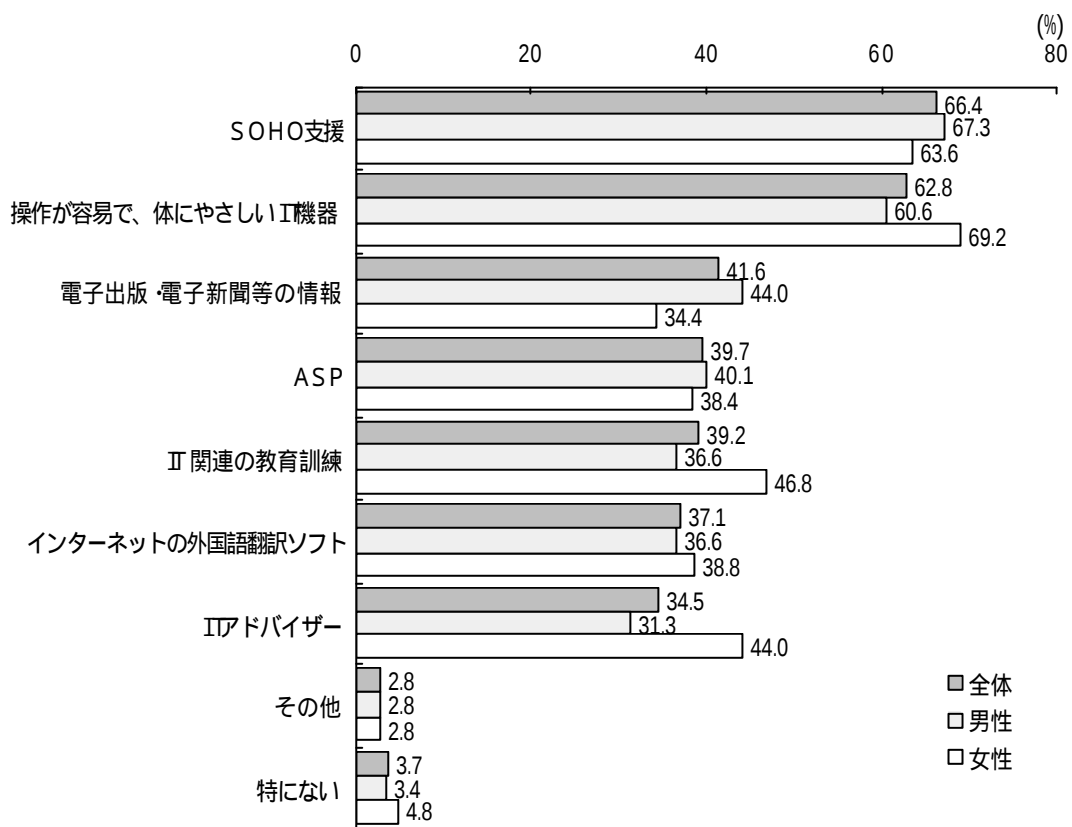
図表 - 2 10 年後の仕事（男性）



- 2 . 10 年後の仕事に求められる I T 環境は「 S O H O 支援」と「操作の
容易な I T 機器」

- ・ 10 年後、仕事に必要と思われる I T 環境は、男性は「 S O H O 支援」、
女性は「操作が容易で、体にやさしい I T 機器」。男女共にこの 2 つは
半数以上の人が必要と考えている（図表 - 3 ）。
- ・ 女性には「 I T 関連の教育訓練」と「 I T アドバイザー」が、男性には
「電子出版、電子新聞等の情報」必要と思う人が多い。

図表 - 3 仕事に必要と思われる I T 環境（複数回答）（性別）



・ 10 年後の I T 社会の展望

この章では 10 年後の I T 社会についての自由な意見を、発展面と、懸念・不安面に分けて整理した。

< 50 代の人たちが考える 10 年後の I T 社会 >

50 代の人たちが 10 年後の I T 社会を展望すると、次の 3 つが特徴として浮かび上がる。

(1) 現在抱えている問題の解決を望む

回答者は習熟度に差はあるものの、毎日のようにパソコンを使っていることから 50 代の中では I T 先駆者といえる。その人たちが日常感じている「機器の扱いにくさ、ウイルスなどの恐怖」や「個人情報の漏洩や他人を中傷する情報の流布」、「I T 環境の地域間格差や、個々の情報リテラシーの格差」など、現在の I T 環境への不満点が 10 年後には解決されることを望んでいる。

(2) 生活の利便性と質の向上を望む

I T 社会への不安を抱きながらも「在宅での仕事や手続きの完了」「病院や薬局とのネットワークによる安心生活」、「災害時の情報提供」など、時間・空間を越えて、自宅に居ながら自分や家族が多くのサービスを楽しむことができる環境の整備・実現が、生活の利便性と質を高めるものとして強く望まれている。

(3) 人間性あふれる I T 社会を望む

10 年後の I T 社会は機械的な無機質な社会ではなく、人間性あふれる社会であることを望む声が強い。I T の発展から省力化や時間等のゆとりを得て、「個人の活動、行動の活発化。時間、行動の制約の解消。住むところの制約の解消」や、「海外や、都市と農村の交流の活発化」など、ふれあいの減少、人間性の欠如、家族間コミュニケーションの不足に陥らない社会の実現が望まれている。

- 1 . I T 社会の発展意識

< 技術の発展 >

- ・ パソコンの操作性の向上。音声入力やモバイル化の進展。高齢者や障害者への対応向上。
- ・ テレビ電話の一般化やホームオートメーションの実現。全世帯が光ファイバーで接続され I T はインフラとなる。
- ・ 言語やホームページの逐次通訳・翻訳が実現。
- ・ ロボットの増加。ロボット化が進む。
- ・ ウイルスなど I T 障害対策が進歩。

< 社会システムの発展 >

- ・ 在宅での仕事や手続きの完了。
- ・ 電子マネー、電子新聞の普及。
- ・ 病院や薬局とのネットワークによる安心生活。
- ・ 地域と公共施設とのネットワークによる地域活動の活発化。
- ・ 災害時の情報提供。

< 人間関係・人間性の発展 >

- ・ 活動、行動の活発化。
- ・ 時間、行動の制約の解消。
- ・ 住むところの制約の解消。
- ・ 海外や、都市と農村の交流の活発化。

- 2 . I T 社会への懸念

< 技術面の懸念 >

- ・ 個人情報 の 漏洩。 I T 犯罪 や サイバーテロ。
- ・ 操作ミス が 致命的 となる こと。
- ・ 機器 の 操作性。
- ・ 情報機器 の 価格。 I T 環境整備 に 出費 が かさむ。
- ・ 地域間格差 不 解消。

< 社会システム面の懸念 >

- ・ 法整備 の 遅れ。
- ・ 行政対応 の 遅れ。
- ・ サービスコンテンツ の 不足。
- ・ I T 学習機会 の 不足。
- ・ I T 化、ロボット活用 による 労働機会 の 減少。

< 人間関係、人間性についての懸念 >

- ・ ふれあいの減少、人間性の欠如。
- ・ 家族間コミュニケーションの不足。
- ・ アナログ生活の見直し。
- ・ 情報格差の拡大。
- ・ 個人中傷情報の流布。
- ・ 外出しないことによる体力の低下。

○ 調査の目的と方法について

【調査の背景と目的】

インターネットを中心としたＩＴの今後については、ブロードバンドという高速、大容量で定額・低料金のインターネットが広く普及することが予定されている。こうした技術の普及が、人々の一般の生活行動やライフスタイル（生活価値観）自体にも影響を与え、これまでの大衆消費型社会とは異なる、新たな消費社会や生活スタイルを生み出していくのではないかと考えられている。

現在、20代から40代の勤労者は職場でＩＴに触れることが多い。また若年層は学校教育も始まり、関心は高い。現在家庭の主婦と高齢者への普及が遅れているが、ＩＴ講習会をはじめ、啓蒙活動は盛んである。最も対応の遅れが懸念されている高齢者への普及や利用の拡大が進めば、社会レベルでのＩＴ化の拡がりに拍車がかかると思われる。従って、今後10年を見据えて、60代となる現在の50代のＩＴ意識や利用ニーズの把握は重要な意味がある。

本調査は、現在パソコンを使ってインターネットを利用している50代（いわゆる団塊の世代を中心とする層）を対象に、ＩＴとの関わりや今後の利用ニーズを調査し、今後のＩＴ社会に期待される変化を描くとともに、それが高年齢層の生活にどのような影響を与え、社会を変化させる可能性があるかを考察することを目的としている。

なお、住民基本台帳ベース人口1億2千6百万人（2000年3月）のうち、50代は1千9百万人で全体の15%を占める最も人口の多い年代である。

【調査方法と回答者の特徴】

パソコンを使ってインターネットを利用している全国の50代の男女8,000名を対象にインターネットを使ったアンケート調査を実施。回収は1,737名、回収率は21.7%。

今回の調査はパソコンを使用している50代の男女を対象としたことから、男性中心のサンプル回収を予想したが、パソコンの世帯普及が急速に進展しているためか、主婦などからの回答も多く、女性が35%となっている。調査実施時期は平成13年10月中旬。

インターネットを主に利用する場所は自宅が多い。男性の6割、女性の9割が主に自宅での利用である。男性の会社員も半数は自宅での利用が主となっており、会社など自宅以外での利用が多いのは男女ともに会社経営者である。

パソコンを常用している今回の回答者は、50代の中ではＩＴの先駆者といえよう。